



飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。



10/1

組 飛騨農業協同組合と飛騨市が災害時の協定締結 合施設を避難所として使用する手順など明確に

飛騨農業協同組合と飛騨市は、災害時に連携して避難者支援などを行う協定を締結しました。

今回は、災害が発生した際に J A ひだ古川支店と J A ひだ吉城営農センターの2階を地域住民の避難所として開放することや、古川支店の駐車場や倉庫を物資の臨時集積所として使用すること、農地が甚大な被害を受けて復旧作業が必要になった場合に飛騨市災害ボランティアセンターへ要員を派遣することなどを決めました。

都竹市長は「危険性の高い地域の近くに緊急避難所が確保できるのはありがたい。住宅が被災した場合、鉄筋コンクリートの丈夫な避難所は地元住民に心強いと思う」などとあいさつ。谷口組合長は「協定に農業ボランティアについて盛り込んでもらってありがたい。連携の中でしっかり取り組んでいければ」と話されました。



10/5

後 書道家の茂住菁邨さんが古川中学校の校歌の一節を揮毫 輩へ思いを込めたメッセージ贈る

古川町出身の書道家、茂住菁邨さんの作品が、古川中学校の正面玄関に掲げられました。横170センチ、縦85センチの額装された作品で、同校の校歌の一節である「故郷の明日を築かん」の文字が堂々たる筆致で書いてあります。

茂住さんが書いた文字は、校歌の3番の最後の一節から抜粋したもの。生徒が生まれ育った故郷を思いながら、志高く未来を切り拓いてくれることを願って同校で選んだそうです。

茂住さんは「私の母校であり、教育実習先でもあり、また父が働いていた職場でもあった同校から、こうしたご縁をいただけたのは本当にありがたいこと」と感謝の言葉を述べながら、「『明日』という言葉には夢や将来像といった前を向く気が感じられ、私も自分なりの思いを込めて書きました。落ち込んだ時などに、この書を見て良い気を感じてもらえたら」と笑顔で話されました。



10/7

児 河合小学校で恒例の「歌舞伎教室」を開催 童らメイクを实践で学び、役者になりきる



河合町の伝統文化「地歌舞伎」の演技指導が河合小学校で行われました。地歌舞伎を通して児童たちの郷土愛を育もうと、同校が文化庁の協力を得て取り組んだもの。美濃歌舞伎博物館「相生座」館長の小栗幸江さんが講師を務めました。

参加したのは5、6年生18人で、隈取（くまどり）と呼ばれる歌舞伎役者ならではのメイク方法を学びました。

児童たちは「紅は一筆で一気に塗るのがコツ」などとアドバイスを受けながら、手本を参考に白粉を塗ったり、赤や黒の顔料で鼻筋や口、眉を描きました。メイクの後は、仕上がった顔を絹布に写し取る「押し隈」を楽しみました。

今回初めて参加した5年の谷口桃奈さんは「眉を一気に描くところや鼻筋が難しかった。本番は失敗しないように上手に描きたいです」と話していました。



10/13 山之村小中学校の児童生徒が特産品販売 会場設営から品出し、呼び込みなども児童生徒主体で

山之村小中学校の児童生徒15人が、市役所前で地元・山之村の特産品の販売会を開きました。

少子高齢化や人口減少による過疎化の中、山之村の良さをより多くの人に知ってもらい、地域の活性化や移住者の増加につながればと企画したもの。児童生徒が主体となって夏休み前から準備を進めてきたそうです。

当日は、すずしろグループの「寒干し大根」や山之村牧場のソーセージなどの特産品、トウモロコシやトルコギキョウなどの農産物を用意。児童生徒は会場設営や品出しの他、呼び込みや利用客の誘導、感染対策などに奔走していました。

会場は販売開始前から行列ができるほどの盛況ぶり。古川町の三嶋美代子さんは「遠いところから来て一生懸命やっている子どもたちがかわいい。これからも頑張ってやってほしいです」と目を細めていました。



10/16 次世代イケメンボーイズグループMAG!C☆PRINCE 永田薫さんが観光プロモーション大使に就任

東海地区出身の次世代イケメンボーイズグループ「MAG!C☆PRINCE(マジックプリンス)」のメンバーである永田薫さんが16日、飛騨市観光プロモーション大使に就任しました。

永田さんは、今年3月に岐阜市と合同で開催した「ぎふ・ひだ観光物産展」をきっかけに飛騨市のファンに。これを縁に、観光プロモーション大使に就任いただくこととなりました。今後は飛騨市のPRを一緒に取り組んでいただきます。

この日は、就任にあわせ飛騨市内で日帰りツアーを開催し、観光プロモーション大使の委嘱式を行いました。

委嘱式では、都竹市長が永田さんに委嘱状を手渡しました。永田さんは「飛騨市の魅力をお伝えできるようこれから頑張ります。応援よろしくお願ひします」と話されました。



10/17 軽2021 飛騨市スポレク祭が初開催 スポーツと「ひだのはたらく車展」楽しむ

「2021 飛騨市スポレク祭(まつり)」が古川中学校周辺で行われました。「古川町スポーツフェスティバル」をリニューアルして今回初めて開催。また、子どもたちに人気の「ひだのはたらく車展」(飛騨古川青年会議所主催)も行われ、家族連れを中心に約1,500人が参加しました。

「ラダーゲッター」や「バスケットピンポン」などのレクリエーションやノルディックウォーキングといった軽スポーツなど全部で15種目が行われました。また、会場ではスタンプラリーも行われ、贈られたお菓子の詰め合わせや協賛の飲料水、ミナモの缶バッチに子どもたちは大喜びでした。

家族4人で訪れた川原佑介さん(古川町)は「コロナでイベントがなくなり、子どもとは公園ばかり出掛けていたので、久々に楽しめて良かったです」と話していました。





飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

10/19

公園の環境保全と入山者の安全対策強化へ

特レポ

天生県立自然公園の環境保全と入山者の安全対策強化を目的に進めているサイン計画の整備について、河合振興事務所と今後の課題の意見交換を行いました。

この日は、サインデザインを手掛けた㈱ジイケイグラフィックス（東京都）と高登建設など市内の施工業者を始め、同園の監視員とガイド、飛騨森林管理署などから約20人が参加。歩道案内サインの問題個所の整理と改良点など、今年度までの整備状況について話し合いました。「やたらとサインを多くしないで設置にメリハリを」「獣害用の電柵の説明や注意事項をもっとアピールして」といった意見も寄せられました。

事務局の柏木俊和さん（河合振興事務所）は「现阶段ではアイデアを広げることが大切ですので、引き続き多くの意見を出していただき、次年度のサイン計画に反映できればと思います」と話しました。



10/21

安全な課外活動に向け、正しい知識と具体的な予防策を

特レポ

神岡小学校の6年生36人、5年生46人を対象に、飛騨市民病院の中林玄一医師が新型コロナウイルス感染症に対する正しい知識と具体的な予防策について講話を行いました。

中林医師はマスクの予防効果や換気の大切さを伝え、「感染者が減ってきた今こそしっかりマスクを」と呼びかけました。また、「これからは必要に応じて自分たちで考えることが大切。基本的な感染対策をきちんとすれば大丈夫」と話されました。

中林医師から「どんなことに気をつけたらいい？」と質問されると、児童らは「大声で話さない」「マスクを着ける」「人混みを避ける」「手洗いと消毒」などと元気に答えました。

6年生の中村紅葉さんは「具体的な事を知れてよかった。分かりやすく話してもらえて嬉しかった。安心して修学旅行へ行きたい」と感想を話していました。



10/23

スマート農業機器の実演会を開催

ロボットや情報通信の技術で省力化を

古川町黒内にある圃場で、令和3年度のスマート農業機器実演会が行われました。スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術などを活用して、作業の省力化や作物の高品質化を推進する農業です。

今回は、実際にスマート機器にふれて、どのくらいの省力化につながるかなどを知ってもらおうと開催したものです。市内の農業関係者約60人が参加されました。

この日は、決められた範囲内で自動で草刈りを行う充電式の草刈機や、前を歩く人をセンサーで追尾して動く運搬機などのスマート機器などを体験しました。

神岡町の米農家・和仁春夫さんは「年を取ると草刈りが大変で、特に夏場の法面の草刈りは大変。良い機械があったら便利そう。あればいいと思うけど、今の時点では購入はなかなか難しい」と話していました。

